

表2 主要博覧会・展覧会大阪関係出品者と作品

元号	西暦	博覧会・展覧会名	展示区分	目録 行番号	出品作品名	出品者住所	出品者名
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1859	菓子盆 堆黒地・蓮華ノ彫草花ノ彫二	大坂	藤沢彦兵衛
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1860	高附 堆黒地・唐草彫一	大坂	藤沢彦兵衛
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1861	小引出シ 堆朱・山水彫銀金具一	大坂	藤沢彦兵衛
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1862	菓子食籠 堆朱・鳳凰丸ノ彫一	大坂	藤沢彦兵衛
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1863	盆 堆黒地・丸形蓮葉蛙ノ彫一	大坂	藤沢彦兵衛
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	第十区物品 漆器蒔絵之部	1864	盆 堆黒地・角形花ノ彫一	大坂	藤沢彦兵衛
明治9年	1876	フィラデルフィア万国博覧会	造家?ニ居家家一般需要ノ家什及ヒ物具 第二百十七小区 家什, 漆器, 木製器	119	堆黒漆器, 菓子器(三十枚), 食籠(五個), 各種大小盆(十七枚), 重箱, 反物台大小各種(六枚)	大坂	藤沢彦兵衛
明治10年	1877	第一回内国勲業博覧会出品目録	第三区美術 第二類	1843	花瓶(1)陶表花鳥裏人物ノ高蒔絵	大阪新町南入	福田源次郎, 住川重助
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1944	広蓋(1)松布」漆器布着黒地耕作描金行李形	東区安土町四丁目	東門五兵衛
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1945	広蓋(2)松布」漆器布着黒地養蚕描金行李形	東区安土町四丁目	東門五兵衛
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1946	菓子器(3)松布」布着総金山水, 描金色紙形	東区安土町四丁目	東門五兵衛
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1947	扇子(1)髓甲及絹」髓甲蒔絵骨絹地面山水裡草花図	東区北浜五丁目	田中達三郎
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1948	扇子(2)象牙及絹」象牙蒔絵骨絹地正月ノ画	東区北浜五丁目	田中達三郎
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1949	扇子(3)象牙及絹」同上, 象牙蒔絵骨絹地御幸ノ図	東区北浜五丁目	田中達三郎
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1950	扇子(4)象牙及絹」象牙?溜母骨絹地牡丹ノ図	東区北浜五丁目	田中達三郎
明治14年	1881	第二回内国勲業博覧会出品目録	第三区 第三類	1951	扇子(5)象牙及絹」象牙母骨片面張絹地松猿ノ図	東区北浜五丁目	田中達三郎
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			高描金山水図 料紙箱	大阪	芝川又右衛門
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			高描金山水図 硯箱	大阪	芝川又右衛門
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			蒔絵三十石船乗合図円形硯箱	大阪	芝川又右衛門
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			高蒔絵 香箱	大阪	芝川又右衛門
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			磨出蒔絵唐草模様重箱	大阪	芝川又右衛門
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			描金角形菓子器	京都	池田清助
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			梨子地蒔絵伽羅箱	京都	池田清助
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			桜花描金箱	京都	池田清助
明治21年	1888	第三回関西連合府県繭生糸茶麻綿紙織物陶漆器繻共進会(京都)			描金食籠	京都	池田清助
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録	第二部美術第四類	358	蒔絵盆附菓子器(1)	大阪市南区鍛冶屋町	葛田栄三郎(英輝)
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録	第二部美術第四類	359	蒔絵菓子器(2)	大阪市南区鍛冶屋町	葛田栄三郎(英輝)
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録	第二部美術第四類	362	蠟色塗重箱(1)	大阪市東区安土町四丁目	東門五兵衛
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	836	漆器文庫(1)	大阪市東区伏見町四丁目	芝川又右衛門
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	837	漆器文庫硯箱(2) 漆器入子附小箱(3) 漆器二重小箱(4) 漆器二重小箱(5) 漆器丸硯箱(6) 描金硯箱(7)	大阪市東区伏見町四丁目	芝川又右衛門
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録追加	第二部美術第四類	837	漆器文庫硯箱(2) 漆器入子附小箱(3) 漆器二重小箱(4) 漆器二重小箱(5) 漆器丸硯箱(6) 描金硯箱(7)	大阪市南区鍛冶屋町	葛田栄三郎(英輝)
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	838	硯箱文台(1)	大阪市南区鰻谷東之町	安原清
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録追加	第二部美術第四類	838	硯箱文台(1)	大阪市東区南区鰻谷東之町	安原清

明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	839	長盆(2) 香合(3)	大阪市南区鰻谷東之町	安原清
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録追加	第二部美術第四類	839	長盆(2) 香合(3)	大阪市東区南区鰻谷東之町	安原清
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	840	漆器蒔絵硯箱(1)	大阪市東区高麗橋三丁目	小国長兵衛
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録追加	第二部美術第四類	840	漆器蒔絵硯箱(1)	大阪市東区高麗橋三丁目	小国長兵衛
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会 追加	第二部美術第四類	843	漆器衝立(1)	大阪市西区江戸堀南通二	加藤武左衛門
明治23年	1890	第三回内国勲業博覧会出品目録追加	第二部美術第四類	843	漆器衝立(1)	大阪市西区江戸堀南通二	加藤武左衛門
明治26年	1893	シカゴコンブス博覧会受賞目録官報	第九十区	544	蒔絵書棚	大阪府	藤原伊兵衛
明治26年	1893	シカゴコンブス博覧会	第九十区	550	金紙、屏風、キユウ漆屏風	大阪府	山中吉郎兵衛
明治26年	1893	シカゴコンブス博覧会	第九十区	553	蒔画鏡台	大阪府	浪川虎之助
明治26年	1893	シカゴコンブス博覧会	第九十区	554	蒔画手箆筒	大阪府	岡治平
明治26年	1893	シカゴコンブス博覧会	第九十区	555	漆器	大阪府	蒔画合資会社
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第二部第十八類?	334	加茂川二千鳥	下京区知恩院新門前通大和路東入三丁目梅本町	春井真造号文真
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	631	蒔絵文庫硯箱(波ニ花筏ノ図)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	632	文台硯箱(蛤の図)(2)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	633	硯箱(達磨ノ図)(3)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	634	蒔絵同(蝶ノ図)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	635	同(祇園鉦ノ図)(5)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治28年	1895	第四回内国勲業博覧会 追加	第四類	636	同(羅漢ノ図)	東区道修町四丁目	芝川又平 蒔絵合資会社社長
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	二等賞		菓子盆	大阪	日本蒔絵合資会社
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	一等賞		紙製丸盆素地	大阪	芝川又右衛門
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	三等賞		硯箱	大阪	安原清
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	三等賞		硯箱	大阪	田中定次郎
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	三等賞		文台硯箱	大阪	藤原伊兵衛
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	四等賞		人力車	大阪	森本治三郎
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	四等賞		緋色卓	大阪	東門五兵衛
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	四等賞		碁盤	大阪	小国長兵衛
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	四等賞		会席膳	大阪	木村楠右衛門
明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会	四等賞		仏壇	大阪	山中清七
明治33年	1900	パリ万国博覧会受賞目録		183	菓子器	大阪府	芝川又右衛門
明治33年	1900	パリ万国博覧会	第十二部(公設建物及ヒ住宅ノ飾並ニ家具)第十五部(雑品ノ工業)漆器及蒔絵類	280	置物・菓子器・手箱・盆	大阪府	田中定次郎
明治33年	1900	パリ万国博覧会	第十二部(公設建物及ヒ住宅ノ飾並ニ家具)第十五部(雑品ノ工業)漆器及蒔絵類	281	菓子器、脇取盆各種	大阪府	芝川又右衛門
明治33年	1900	パリ万国博覧会	第十二部(公設建物及ヒ住宅ノ飾並ニ家具)第十五部(雑品ノ工業)漆器及蒔絵類	347	香箱、香盆	京都	池田合名会社本店
明治33年	1900	パリ万国博覧会	第十二部(公設建物及ヒ住宅ノ飾並ニ家具)第十五部(雑品ノ工業)漆器及蒔絵類	401	菓子器、香盆	大阪府	藤原伊兵衛
明治33年	1900	パリ万国博覧会	受賞目録 銀杯	433	漆器十種香箱	京都	池田合名会社本店
明治33年	1900	パリ万国博覧会受賞目録		961	漆器置物箱	大阪府	田中定次郎
明治36年	1903	第五回内国勲業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	709	蒔絵瀟湘八景料紙硯箱	下京区新門前通梅本町	池田清助

明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	737	堆黒塗菊桐紋香盆	南区安堂寺橋通三ノ十七	今西清三郎
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	738	蒔画硯草硯箱	東区安土町四ノ一二三	東門五兵衛
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	739	蒔画平日地宇津山城料紙箱	東区高麗橋三ノ三九	小国長兵衛
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	740	蒔画松鶴硯箱	東区平野町五ノ四十	尾関源太郎
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	741	蒔画柳文台硯箱	東区一ノ四五	川端佐七
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	742	蒔画大内料紙文庫	東区本町四ノ一三〇	田中合名会社
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	743	蒔画八景書棚	東区本町四ノ一三〇	田中合名会社
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	744	蒔画吉野竜田料紙硯箱	東区本町四ノ一三〇	田中合名会社
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	745	蒔画須磨, 明石料紙	南区鍛冶屋町八幡筋北へ入ル東側一七八	鳶田英三郎号英輝
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	746	蒔画吉野山料紙硯箱	南区八幡町一八一	藤原伊兵衛号春芳堂
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	747	堆朱藤実形香合	東区東雲三ノ二六〇	桐畑文次郎
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	748	堆朱丸形香合	東区東雲三ノ二六〇	桐畑文次郎
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	749	蒔絵山水二重菓子器	東区伏見町四ノ四九	芝川又右衛門
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	750	蒔絵草花式楽器料紙	東区伏見町四ノ四九	芝川又右衛門
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	第十部美術及美術工芸 第五十八類美術工芸 其一ノ二 漆工	751	蒔絵丸菓子器	東区伏見町四ノ四九	芝川又右衛門
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会受賞目録	工藝及工業	66		京都	池田清助
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会受賞目録	最高賞 工業及工藝	69		大阪	芝川又右衛門
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会	漆工	157	山水料紙文庫	大阪	藤原伊兵衛
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会出品目録	漆工	162	香棚画小形硯箱	京都	池田清助
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会	漆工	163	菊桐有職模様香盆	大阪	松林定七
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会	漆工	169	敦盛二千鳥手箱	大阪	田中合名会社
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会受賞目録	工業及工藝	425		大阪	川端佐七
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会受賞目録	工業及工藝	450		大阪	田中合名会社
明治43年	1910	日英博覧会受賞目録	漆工 協賛銅賞	137	吹寄模様蒔絵重香篋 春井清三郎	京都	池田清助
明治43年	1910	日英博覧会目録	キユウ漆	242	重香合吹寄模様蒔絵	京都	池田清助
大正2年	1913	第一回農商務省图案及应用作品展覧会		45	流水塗蜻蛉模様菓子盆	大阪	鳥野三秋
大正2年	1913	第一回農商務省图案及应用作品展覧会		105	粟穂画漆塗油画彩色二尺盆	大阪	徳岡作兵衛
大正3年	1914	第二回農商務省图案及应用作品展覧会		99	冠卓式流水模様二段卓	大阪	鳥野三秋
大正5年	1916	第四回農商務省图案及应用作品展覧会		178	匙水鏡水草模様漆器香棚	大阪	安原祥窓
大正5年	1916	第四回農商務省图案及应用作品展覧会		179	家形水車模様漆器硯箱	大阪	安原祥窓
大正5年	1916	第四回農商務省图案及应用作品展覧会		184	银杏模様蒔絵冠卓	大阪	奥城紫明
大正7年	1918	第六回農商務省工芸展覧会		143	若松蒔絵漆器布日塗小棚	大阪	奥城紫明 関西蒔絵奨励会出
大正7年	1918	第六回農商務省工芸展覧会		178	鳶模様蒔絵船器短冊箱	大阪	遊部秋園
大正7年	1918	第六回農商務省工芸展覧会		316	瓢箪蒔絵漆器大形硯箱	大阪	大津祥斎
大正8年	1919	第七回農商務省工芸展覧会		360	光悦形青貝雲堂漆器茶入	大阪	川合好太郎
大正8年	1919	第七回農商務省工芸展覧会		376	水草模様漆器小硯箱	大阪	吉川義信

大正8年	1919	第七回農商務省工芸展覧会		386	花鳥模様三角隅切漆器菓子盆	大阪	遊部秋園
大正8年	1919	第七回農商務省工芸展覧会		389	舟意匠漆器萐盆	大阪	遊部秋園
大正9年	1920	第八回農商務省工芸展覧会		392	秋ノ夜ノ図漆器布目器局	大阪	奥城紫明
大正10年	1921	第九回農商務省工芸展覧会		414	隅切三角額縁天平模様菓子盆	大阪	安原祥窓
大正10年	1921	第九回農商務省工芸展覧会		430	花鳥模様蒔絵漆器菓子盆	大阪	安原祥窓案 近藤曉窓作出
大正11年	1922	第十回農商務省工芸展覧会		413	蓑状 草花模様小硯箱	大阪	安原祥窓
大正11年	1922	第十回農商務省工芸展覧会		414	隅切三角額縁天平模様菓子盆	大阪	安原祥窓
大正12年	1923	第十一回農商務省工芸展覧会		372	古代模様菓子盆	大阪	山内芝仙
大正12年	1923	第十一回農商務省工芸展覧会		417	花紅葉小箱	大阪	遊部秋園
大正12年	1923	第十一回農商務省工芸展覧会		522	丸形富貴登蒔絵菓子盆	大阪	川端佐七
大正12年	1923	第十一回農商務省工芸展覧会		523	草花平茶器	大阪	川端佐七
昭和2年	1927	第八回帝国美術院展	第四部美術工芸	254	海辺の松(手箱)	大阪	安原祥窓
昭和4年	1929	第十回帝国美術院展	第四部美術工芸	73	水の音 蒔絵香炉盆	大阪	越田尾山
昭和6年	1930	第十一回帝国美術院展	第四部美術工芸	83	蒔絵縄暖簾隅屏風	大阪	越田尾山
昭和5年	1930	第十一回帝国美術院展	第四部美術工芸	95	順風蒔絵文庫	大阪	鳥野三秋
昭和6年	1931	第十二回帝国美術院展	第四部美術工芸	82	菱葉文匣	大阪	越田尾山
昭和6年	1931	第十二回帝国美術院展	第四部美術工芸	92	楼橋文庫	大阪	鳥野三秋
昭和6年	1931	第十二回帝国美術院展	第四部美術工芸	158	風漆器棚	大阪	安原祥窓
昭和7年	1932	第十三回帝国美術院展	第四部美術工芸	93	漆器若菜文庫	大阪	越田尾山
昭和7年	1932	第十三回帝国美術院展	第四部美術工芸	106	車文蒔絵手箱	大阪	鳥野三秋
昭和7年	1932	第十三回帝国美術院展	第四部美術工芸	188	サハリ塗蒔絵棚	大阪	安原祥窓
昭和8年	1933	第十四回帝国美術院展	第四部美術工芸	109	蒔絵朝と夕手文庫	大阪	越田尾山
昭和8年	1933	第十四回帝国美術院展	第四部美術工芸	124	蒔絵鉄線花文具筥	大阪	鳥野三秋
昭和8年	1933	第十四回帝国美術院展	第四部美術工芸	231	漆器雁来紅文庫	大阪	安原祥窓
昭和v年	1934	第十五回帝国美術院展	第四部美術工芸	105	華文匣	大阪	越田尾山
昭和9年	1934	第十五回帝国美術院展	第四部美術工芸	118	石榴文手筥	大阪	鳥野三秋
昭和9年	1934	第十五回帝国美術院展	第四部美術工芸	214	漆器温室の鏡	大阪	安原祥窓
昭和11年	1936	文展	第四部美術工芸	招待 36	新涼蒔絵二枚折屏風	大阪	鳥野三秋
昭和11年	1936	文展	第四部美術工芸	76	漆さざ波風炉先屏風	大阪	越田尾山

表3 大阪関係漆工年表

元号	西暦	事項	出典
天正年間	1573-1592	大阪漆商人は天正年間既に三名あり。	『東区史』第3巻経済篇436頁
元和2年	1616	山村与助が徳川家に召され伏見配下の大工をはじめ塗師などをつれて大阪に移り大阪城建築の御用を勤める。その後山村氏が建築に関わる諸職を支配した。	『大阪市史』第5巻154頁
寛永8年	1631	漆屋仁左衛門、漆屋治郎右衛門、漆屋弥左衛門の三人が大坂町奉行久員正俊から漆商の免許を受ける。漆屋仁左衛門は慶長以後北久太郎町三丁目に住居。明暦年間屋号を吉野屋に改める。	『東区史』第3巻経済篇436頁、「漆商旧記」(『大阪市史])
延宝1年	1673	大坂の漆商人は十二軒。	『大阪漆商の沿革』(昭和46年鳴神株式会社刊、以下略)
延宝6年	1678	大坂の漆商人は二十軒。	『大阪漆商の沿革』
延宝7年	1679	20軒の大坂の漆商人が集まり戎講と称する組合を創始。正月、五月、九月の年に三回漆商人が集まって種々の申し合わせをしたもの。	『大阪漆商の沿革』
延宝7年	1679	塗物類難波はしすぢ ぬしや順慶町 わん家具具俵すぢ わん家具真斎橋順慶町。	『懐中難波すぢめ』『増補難波すぢめ』『難波鶴』『難波鶴後追』(元禄9『難波丸』にも同様の記述あり)
延宝8年	1680	漆商人戎講が三十軒となる。	『大阪漆商の沿革』
天和1年	1681	漆商人戎講が二十四軒。	『大阪漆商の沿革』
元禄3年	1690	漆商人戎講が三十三軒。	『大阪漆商の沿革』
元禄16年	1703	元禄年間大坂の漆屋仲間が諸国の山方漆掻との直接取引をやめ、漆仲買が出資者となり、山方案内者(漆問屋)を通じて漆を調達することになり、新加入者の処置・生漆購入方法、雇傭人の取締などについて申し合わせをおこなう。	『大阪市史』第2巻375頁、第1巻549～550頁
正徳2年頃	1712	今モ亦攝陽順慶町 漆腕家多有之 江州日野紀州根来同黒江奥州会津摂州大坂同堺京師皆之を作る。其根来腕最佳今絶えて出でず以て京大坂之腕を上と為す。	『和漢三才図会』三十一包厨具
享保15年	1730	漆商人戎講が四十七軒。	『大阪漆商の沿革』
延享5年	1748	北久太郎町から安堂寺町まで、難波橋から三休橋の間に塗師が居住。轆轤師は平野町難波橋筋、北久太郎町梅檀木橋厨地の辺に集住。蒔絵師長谷友次が瓦町心斎橋、塗師川端半斎が御小人町御はらひすしにあがる。	『改正増補 難波丸綱目』下之二、七四丁
寛延4年	1751	住吉講を結成した新規参入の漆商人が戎講に合流。	『東区史』第3巻経済編
宝暦11年	1761	元禄16年の漆仲買、漆問屋間の申し合わせを強化する。	『大阪市史』
明和5年	1768	漆商人戎講が五十六軒で、最高を記録する。	『大阪漆商の沿革』
安永9年	1790	腕盆食籠木地職仲間を組織、仲間は十二人、仲間外が三人。	『仲間判形帳前書』(『大阪市史』第5-731頁)
寛政7年	1795	漆の値段が高騰したため塗師職が東町奉行所に訴状を出す。	『漆商旧記』(『大阪市史』第2-375頁)
文政1年	1818	初代川端近左生まれる。二条高倉上るの近江屋は岡山藩豊岡藩の御用油商。蒔絵は趣味ではじめた。近江屋佐兵衛から近左と号す。長男は川端玉章。	『六代川端近左漆芸展パンフレット』、『聴松：愈好斎の茶の湯』
天保9年	1819	轆轤仲間は十六軒。	
文政6年	1823	中川利三郎(芝川又平、初代芝川又右衛門)中川重次郎の子として京都富小路通丸太町下るに生まれる。	『芝蘭遺芳』
文政6年	1823	二代川端近左(初代の弟 本名左七)生まれる。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
天保14年	1824	春井清三郎薬種商四代目清三郎の長男として生まれる。蒔絵師小谷孫三郎の門下に入る。象牙彫刻・唐木細工・塗師・木地師を招いて内外の嗜好に適す品を考案。工場を新設する。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』(『漆と工藝』398号以下略)
天保15年	1844	安原清(機芳)金澤に生まれ、後に画を森春岳、蒔絵を五十嵐与右衛門に習う。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
弘化3年	1846	中川忠兵衛(芝泉)、京都に生まれる。鈴木玉船について蒔絵を修める。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
弘化3年	1846	諸漆所として南本町三丁目いずみや善兵衛、南久太郎町堺筋西入吉野屋嘉兵衛、北久宝寺町には橋西入吉野屋善兵衛、南本町四丁目よし乃や善助、南久太郎町には橋入黒川屋三右衛門、博労町には橋南入吉野屋太郎兵衛があがる。	『買物独案内』
弘化4年	1847	初代吉田一閑(飛来一閑十一代有隣の弟子)がこの頃、京都より道修町に移り、大阪で一環塗をはじめた。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
嘉永1年	1848	今村洋渡、兵庫県河辺村に生まれる。京都の漆匠長寛に学ぶ。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
嘉永年間	1848-1854	腕折敷家具一切塗師職仲間再興後の員数二百十二人。	
嘉永4年	1851	吉田一閑(三代 熊七 二代次男)、京都に生まれる。通称は京久。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
嘉永6年	1853	三代川端近左生まれる。	『六代川端近左漆芸展パンフレット』、『愈好斎の茶の湯』
安政1年	1854	三代川端近左(初代川端近左の三男廉吉(蟻(義)洞)、京都に生まれる。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』、『大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀』(『日本漆器新聞』第2巻第2号、以下略)
安政2年	1855	塗師職と漆仲買の間に漆の価格をめぐる紛争が再び起こるが和解する。	『漆商旧記』(『大阪市史』第2巻376頁、872-874頁)
安政3年	1856	浅野惣三郎(可秀)、加賀に生まれる。鶴来又右衛門、高田茂三郎に蒔絵を習う。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
安政3年	1856	戎講の組織や規約を変更。定行事を置く。(明治まで存続)江戸末期の漆商は、漆問屋四軒(藤屋嘉兵衛、大野屋七兵衛、越前屋弥七郎、紙屋永三郎)。漆仲買人(精製販売業者)二十八軒。	『大阪漆商の沿革』
安政5年	1858	轆轤仲間が二十四軒に増加。	
元治1	1864	初代川端近左蛤御門の変で火災にあう。	『六代川端近左漆芸展パンフレット』、『愈好斎の茶の湯』
慶応1年	1865	田中平三郎大阪に生まれる。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
慶応1年	1865	初代川端近左、長男の玉章とともに岡倉天心のすすめ、三井家の後援により江戸に移住。	

慶応1年	1865	中川忠兵衛（芝泉）大阪に移り蒔絵に専念する。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
慶応3年	1867	二代川端近左が土田潮流、春海商店、戸田商店のすすめで大阪に移住。	「六代川端近左漆芸展パンフレット」、『聴松：愈好斎の茶の湯』
慶応3年	1867	第二回パリ万国博覧会。	
明治1年	1868	川合漆仙大阪市北区に生まれる。川端近左について漆塗蒔絵を修行。藤田伝三郎男爵の知遇を得る。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治6年	1873	ウィーン万国博覧会	
明治8年	1875	今村洋渡、今村平助の養子となる。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治9年	1876	フィラデルフィア万国博覧会	
明治10年	1877	吉田一閑（休兵衛 二代）没。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治10年	1877	第一回内国勸業博覧会（東京）	
明治11年	1878	パリ万国博覧会	
明治14年	1881	吉田一閑（光太郎 四代 三代長男）生まれる。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治14年	1881	島野三秋、金沢市に生まれる。	『美術年鑑』
明治14年	1881	第二回内国勸業博覧会（東京）。	
明治16年	1881	第一回関西府県連合共進会（大阪府）。	
明治15年	1882	大阪漆商組合ができる。	「大阪漆商の沿革」
明治16年 （15年説あり）	1883	安原清、貿易商池田清助に聘せられ、神戸で輸出漆器の製作に従事。（神戸に 来た時期に誤謬あり）	「大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀」には明治15年。 「郷土名工助長奨励功労者小伝」には16年とある。
明治18年	1883	『漆器集談会記事』発行。	『漆器集談会記事』
明治18年	1883	『蘭糸織物陶漆器共進会』（東京）。	
明治17年	1884	春井清三郎、42歳で没す。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治17年	1884	安原清三男勝守（祥窓）金沢に生まれる。武部秋鮭に絵画を、兄重二に描金、 蒔絵を学ぶ。	「大阪人名資料事典」第2巻
明治19年	1884	第二回関西府県連合共進会（広島県）。	「関西連合府県蘭生糸綿織物紙茶共進会報告書」第 2回（明治20年1月漆は出品無し）。
明治19年	1884	府県漆器沿革漆工伝誌発行。	「府県漆器沿革漆工伝誌」
明治20年	1885	安原清、大阪に移住し、鯉谷東ノ町で池田氏、小国長兵衛の仕事をする。	「大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀」
明治21年	1886	第三回関西府県連合共進会（京都府）。	「関西連合府県蘭生糸茶麻綿紙織物陶漆器共進会 報告書」第3回（明治22年）
明治21年	1888	中川忠兵衛（芝泉）、日本蒔絵合資会社教授長となる。弟子に高橋芝豊、大津 定次郎、橘芝青、山内芝仙。	「大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀」、 「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治22～ 24年	1889	今村（大橋）洋渡、中国、アジア、オーストラリアなどを歴訪。	「大阪中興漆器の思ひ出と当時の儀」
明治22年	1889	初代川端近左没。	「六代川端近左漆芸展パンフレット」、 『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治23年	1890	浅野惣三郎、石川県立工業学校設立に際し、美術工芸部描金科助教諭となるが、 数年後退職して自営。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治23年	1890	芝川又平（初代又衛門）、住友吉左衛門と共同で有限会社浪華蒔絵所を設立。	『芝蘭遺芳』
明治23年	1890	第三回内国勸業博覧会（東京）	
明治25年	1890	第四回関西府県連合共進会（奈良県）。	広島県でも同年開催
明治24年	1891	四代川端近左（三代近左の兄対吉の三男、対三郎で十二歳の時、三代の養子と なる）生まれる。	「六代川端近左漆芸展パンフレット」、 『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治26年	1893	安原清、日本美術協会大阪支会の設立に尽力する。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」に明治24年とある が、実際には26年か。
明治26年	1893	11月有限会社浪華蒔絵所日本蒔絵合資会社と改称、社長を芝川又平とし、資本 金を5万円に減少し、芝川、住友半額を出資する。	『芝蘭遺芳』
明治26年	1893	齋藤利兵衛が大阪漆商組合長に就任。	「大阪漆商の沿革」
明治28年	1893	第五回関西連合府県共進会（岡山県）。	「関西連合府県蘭生糸茶米麦菜種実綿麻葉煙草織物 陶磁器漆器紙共進会報告書」第五回（明治28年）
明治27年	1894	第五回関西府県連合共進会（石川県）。	「府県連合共進会審査復命書」（「石川県主催第五回 関西府県連合共進会復命書」）、 「府県連合共進会審査復命書」（明治28年）
明治29年	1894	五二会全国品評会（京都）。	
明治28年	1895	第四回内国勸業博覧会（京都）。	
明治30年	1897	中川忠兵衛（芝泉）、五十二歳で没。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治30年	1897	田中平三郎、大阪漆器商組合を組織。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」
明治30年	1897	初代近左の三男は二代近左に跡継ぎがなかったので兄玉章の後援をうけて大阪 に移住。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治30年	1897	『第六回関西府県連合共進会』（兵庫県）。	「関西連合府県共進会事務報告」第六回、（兵庫県 第六回関西連合府県共進会事務所明治31年）。
明治31年	1898	芝川又平（初代又衛門）日本蒔絵合資会社を個人経営とする。	『芝蘭遺芳』
明治31年	1898	田中平三郎、島佐兵衛とともに大阪市を動かし市立図案調整所を設立せしめ、 漆器銅器の図案の調整指導を誘致する。	「郷土名工助長奨励功労者小伝」

明治31年	1898	全国漆器漆生産府県連合共進会が京都府で開催され、安原清、今村洋渡が漆器蒔絵及其関係品審査員となる。	『全国漆器漆生産府県連合共進会審査復命書』（明治32年）、『全国漆器漆生産府県連合共進会』（明治32年）
明治33年	1898	五二階全国品評会第二回（兵庫）。	
明治32年	1899	安原清、3月五十七歳で没。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
明治32年	1899	第七回関西府県連合共進会（富山県）。	
明治35年	1900	第八回関西府県連合共進会（香川県）。	
明治34年	1901	二代川端近左没。三代近左襲名。	『六代川端近左漆芸展パンフレット』、『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治35年	1902	浅野惣三郎、田中合名会社の委嘱により大阪に移る。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
明治36年	1903	第五回内国勸業博覧会	
明治36年	1903	安原清の次男重二（初代祥窓）没す。重二は渡邊祥益に絵画を学び、蒔絵を弟勝守（二代祥窓）に教えた。	『大阪人名資料事典』二巻
明治37年	1904	島野三秋、大阪市に移住。	『美術年鑑』
明治37年	1904	セントルイス万国博覧会。	
明治40年	1907	第九回関西府県連合共進会（三重県）。	
明治43年	1910	第十回関西府県連合共進会（愛知県）。	
明治43年	1910	日英博覧会。	
明治45年	1912	三代川端近左（左近）五十九歳で没。	六代川端近左漆芸展パンフレット』、『聴松：愈好斎の茶の湯』
明治45年	1912	今村洋渡、明治天皇御大喪御輻車塗ご用命をうける。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
大正1年	1912	芝川又平（初代又右衛門）、十二月に没。	『芝蘭遺芳』
大正2年	1913	第一回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正3年	1914	吉田一閑（三代）、六十四歳で没す。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
大正5年	1916	第四回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正6年	1917	第五回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正7年	1918	第六回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正8年	1919	第七回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正9年	1920	第八回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正10年	1921	第九回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正11年	1922	第十回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正11年	1922	今村洋渡、生家において没す。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
大正12年	1923	大阪の美術団体の統合をめざして大阪市が中心になり大阪市美術協会が成立する。（日本画170人、洋画22人、彫塑20人、金工22人、漆器24人、指物24人、籠竹器11人、陶器3人、刀剣4人、織物1人、特別美術会員6人、賛助会員3人、特別会員285人、名誉会員3人）	『新修大阪市史』第六巻
大正12年	1923	第十一回農商務省図案及应用作品展覧会。	
大正13年	1924	大阪市美術協会の第一回展、美術工芸部門の審査員に川合漆仙、越田尾山、安原祥窓。	『新修大阪市史』第六巻
大正13年	1924	大阪府工芸協会創立	
大正14年	1925	川合漆仙、大正天皇銀婚式御祝典に際して大阪府より献上品の髹漆を命ぜられる。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
昭和2年	1927	第八回帝国美術院展覧会に美術工芸部門ができる。	
昭和3年	1928	川合漆仙、2月六十一歳で没。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
昭和4年	1929	第十回帝国美術院展覧会	
昭和5年	1930	第十一回帝国美術院展覧会	
昭和6年	1931	第十二回帝国美術院展覧会	
昭和7年	1932	浅野惣三郎、4月七十七歳で没。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
昭和7年	1932	田中平三郎、6月、六十七歳で没す。	『郷土名工助長奨励功労者小伝』
昭和7年	1932	第十三回帝国美術院展覧会	
昭和8年	1933	第十四回帝国美術院展覧会	
昭和9年	1934	第十五回帝国美術院展覧会	
昭和11年	1936	文展	
昭和14年	1939	大阪漆商組合が関西漆精製工業組合となり、原料漆の入手から精製漆の配給まですべて統制が行われる。	『大阪漆商の沿革』
昭和16年	1941	島野三秋、文展審査員となる	『大阪漆商の沿革』、『美術年鑑』
昭和22年	1947	吉田一閑（四代）没。	『聴松：愈好斎の茶の湯』
昭和22年	1947	六代川端近左没。	『六代川端近左漆芸展パンフレット』『聴松：愈好斎の茶の湯』
昭和25年	1950	大阪漆工業会を発展解消し、新たに大阪漆商工会を設立。	『大阪漆商の沿革』